

「学校・家庭・地域・行政の連携・協働による子供たち一人一人のウェルビーイング

ング(Well-being)の実現に向けて」

「ウェルビーイング(Well-being)」とは・・・
良好な状態のこと、心身共に健康で、持続的に幸福な状態

経済協力開発機構(OECD)は、「教育の目的は、個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングの2つを実現することである」としている。

今まで・・・

知識・技能を習得する教育が特に重視されてきた。そうした力を試す入試問題で高い点を取ればよい学校に入学でき、将来の幸せにつながると多くの大人が信じていたからである。その子供たちも、将来のために今を犠牲にして、詰め込み型の勉強を強いられてきた。確かに将来の幸せは大切だが、それと同じくらい「今」が幸せであることも大切である。しかも、詰め込み型の勉強を続けても幸せな将来が約束されないことは、もはや誰もが知っている。興味があることに夢中になって取り組むことが本来の勉強なのだと発想を転換できれば、子供たちは「今」をもっと幸せに感じられるはずである。学校現場でも、家庭でも、そうした「今も将来も」幸せになれる学びをつくり、支援することが強く求められている。

これからは・・・

知識・技能だけが必要とされる力は、今後はAIやロボットが代替していくと思われる。人間には、習得した知識を現実の世界で活用できる力が必要とされる。そうした力は、好きなことに打ち込んだり、時間をかけて1つのことにじっくり取り組んだりする経験を重ねることで身につけていく。

ウェルビーイングの第一歩は・・・

ウェルビーイングが示すものはとても大きく、めざす状態も人によってさまざまである。実現への道のりは単純ではない。だからこそ、すべての人が関わる「教育」が果たす役割と可能性は非常に大きいと言える。学校で、家庭で、一人でも多くの子供が「学んでよかった」「努力してよかった」「自分が学んだことを使った結果、他の人を幸せにできた」と思える経験を積み、ウェルビーイングを実現させてほしい。

(参考：ベネッセ教育総合研究所：神田有希子)